

プロジェクトの進捗を議論する第2回合同調整委員会開催
(2022年1月14日)

2019年4月に開始してプロジェクトは3年目を迎え、5年間のプロジェクト期間の折り返し地点を回ったところ。この間、世界の例に漏れず、プロジェクト活動は新型コロナウイルスとの闘いの中で工夫を凝らしながら実施されてきました。プロジェクト後半に向けてこれまでのプロジェクト進捗を関係者全員で共有し、今後の計画について話し合う、第2回合同調整委員会（JCC：Joint Coordinating Committee）を開催しました。



新型コロナウイルスの状況はベトナム側でも厳しく、限られた参加者のみが国立熱帯病病院に集まりました。



今回も日本からの参加者の渡航は叶わず、日本側参加者は NCGM に集まり、オンラインでの参加となりました。

プロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）、ハノイ医科大学、保健省エイズ予防局（VAAC）などのベトナム側参加者、そして日本側からは JICA 本部・ベトナム事務所はもちろん、プロジェクト実施機関でもある国立国際医療研究センター（NCGM）エイズ治療・研究開発センター（ACC）や熊本大学、そして SATREPS プロジェクトの共同実施機関でもある日本医療研究開発機構（AMED）の皆様にも参加頂きました。昨年度に引き続き、ベトナムにおいて一堂に会し、顔を合わせてという形で実施できなかったのは残念ですし、今回はベトナム側での新型コロナ感染状況も厳しいため、限られた参加者が会議室に集まり、その他は日越側ともオンラインでの実施となりました。

プロジェクトコーディネーターである NHTD の Giang 医師とハノイ医科大学の Giang 教授からの進捗報告の後、参加者からプロジェクトの成果や課題に様々な助言を頂きました。プロジェクト第2年度に続き、この一年も引き続き日越双方の往来ができず、NHTD 自身がコロナ対策に奔走せざるを得なかったことは大きくは変わりませんでした。その一方、初年度、第2年度でプロジェクトが築いた基礎もあり、2021年からは HIV 治療モニタリングを行うパートナー病院は6つ増え、10病院に拡大しました。また、HIV 治療における新型コロナウイルスの影響に関する質問票調査、HIV 感染者の新型コロナウイルス抗体検査など、コロナ禍での課題にも対応した新しい活動からは、新型コロナウイルス感染症の流行が HIV 治療に与える影響を理解する有意義な発見がありました。



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



そして、5年間の本プロジェクトは間もなく3年目を終了しようとしているということで、今回会議では、今まで構築してきた抗 HIV 療法モニタリングシステムや、薬剤耐性検査に基づく診療レポートの返却体制をいかにベトナム側に引き継いでいくかが焦点となりました。プロジェクトが実施している抗 HIV 療法モニタリングシステムによって、定期的に NHTD で実施されるウイルス量検査や薬剤耐性検査の結果を迅速に地域病院と共有することができ、臨床でのタイムリーな活用に役立てられています。現在これらの活動はプロジェクトが主に管理運営していますが、この活動をどのような形でベトナムへ移行し政策へ反映させていくかは、今後の重要な課題の一つです。この点について、メインカウンターパートの NHTD やベトナムの HIV/エイズ対策の要である VAAC の方々より積極的なコメントを頂くことができました。

ちょうどベトナムの新年であるテト（旧正月：2022年は2月1日）を目前に実施ができた今回の JCC。まだまだ新型コロナを巡り不確実な世の中ではありますが、プロジェクトは新しい年に向けて更に活動を頑張っていきたいと思います。